



森のなかま

2025 年 7 月号

NO. 205 (継続 350 号)

NPO 法人かながわ森林インストラクターの会 <http://www.forest-kanagawa.jp>

発行人 黒川 敏史

〒243-0018 厚木市中町2丁目13番14号・サンシャインビル6階604号 TEL046-297-0301・Fax046-297-0302

令和 7 年度 かながわ森林インストラクターの会 通常総会開催

令和 7 年 6 月 14 日(土)に、特定非営利活動法人かながわ森林インストラクターの会の通常総会が、総勢 198 名(会場出席者 55 名 および 書面表決、委任状を含む)の参加を得て、横浜市西区みなとみらい地区にある日揮ホールディングス(株)の 504 会議室をお借りして、13:30~16:30 の時間で開催された。

野村 昭憲 総務部長(14 期)の司会・進行により開会宣言、黒川 敏史 理事長(14 期)の挨拶に続き、今回、ご多忙の中出席いただいたご来賓 県環境農政局緑政部水源環境保全課 井出 博晶 課長様、同 熊谷 蒼主事様、かながわトラストみどり財団 新井 匡 専務理事兼事務局長様の紹介と挨拶を頂いた。

次に、総会成立宣言の後、議長に三浦 由香子氏(17 期)、書記に小国 一男氏(17 期)および内田 千春氏(18 期)、議事録署名人に黒川 敏史氏(14 期)、佐藤 恭平氏(1 期)および三浦由香子氏(17 期)を選出し、総会議事の審議がスタートした。

議事の円滑な進行のため、第 1 号議案である「令和 6 年度活動報告及び決算(案)」は、佐藤事務局長と石井会計部長、上宮田監事に一括して報告いただき、質疑(事前の書面質疑を含む)・応答ののち、賛成多数で可決された。次に、第 2 号議案である「令和 7 年度活動計画及び予算(案)」を各担当に個別に報告いただき、質疑(事前の書面質疑を含む)・応答ののち審議し、賛成多数で可決された。最後に、第 3 号議案である「役員の選任について」、当期(令和 5 年 7 月 1 日から令和 7 年 6 月 30 日)の理事が紹介され、次に次期役員として 14 名の理事・監事候補が紹介され、賛成多数で可決、承認された。

● 令和 7 年度の会活動方針は

1. 安全最優先
2. 森林インストラクター派遣要請に確実に応える
3. 会員の利便性向上のため、情報の整備



総会進行中の写真



会場出席者集合写真

(記 野村 昭憲⑭、写真 末原 興一⑮)

【森林技術部会・普及啓発部会主催】 合同研修会

日 時： 令和 7 年 4 月 12 日（土） 9:00～15:00 天気： 晴れ

場 所： 県立 21 世紀の森 風切り水源林および森林館

参 加 者： 牛島①、菊池①、野牛⑧、内野⑨、鈴木⑭、藤井敏⑭、石垣⑮、久次米⑯、鈴木⑯、
中村⑯、内田⑰、小国⑰、田島⑰、柳沢⑰、伊藤⑱、植原⑱、大川⑱、川島⑱、
桑島⑱、佐伯⑱、繁山⑱、菅原⑱、田中⑱、平出⑱、藤巻⑱、山口⑱、渡邊⑱、
（午後のみ：藤井世⑭）

統括講師： 岩田⑭

講 師： 森林技術部会（午前）： 岩田⑭、滝澤⑤

普及啓発部会（午後）： 井出①、森本⑤、山崎⑦、松本⑪

森林技術部会と普及啓発部会の合同研修会が、県立 21 世紀の森で開催されました。前夜の雷雨が嘘のように、当日は晴天に恵まれ、風も穏やかで絶好の研修日和となり、参加者は、自然の中で学びと楽しさを満喫しました。

<午前の部：間伐作業の研修>

午前中は風切り水源林にて、学校関連のネットワーク活動の一環として間伐作業の研修が行われました。参加者は駐車場に集合した後、間伐に必要な資材を持って 30 分ほど山を登り、作業場に向かいました。18 期生 4 名が小学校の生徒役となり、ロープブレイング形式で実施されました。今回の間伐は 1 本だけで、比較的太めのヒノキを選木。本番では劣性間伐のため、生育の悪い細めの木や形状の良くない木が選ばれるということです。以前は生徒たちの目の前で選木からロープ掛けまで行っていたましたが、時間がかかり、生徒たちが飽きてしまうため、インストラクターが事前に準備を進める手順に変更されました。

講師からは伐木方向や木の重心の見極め、ロープ掛けの手順など、ティップを交えて指導頂き、いよいよ受け口作成開始。生徒役が交代で受け口と追い口を作成し、最後は生徒役全員でロープを引っ張って目標方向へ伐倒しました。本番では生徒数名に少しずつ受け口や追い口を作ってもらおうそうです。生徒によっては切るのが楽しくって、つつい切りすぎたり、倒れるまでじっと待っていらなくてチョロチョロと伐木方向へ移動したりするので、伐木作業だけでなく生徒たちの行動管理にも非常に気を遣いそうです。

その後、参加者全員で枝打ちや玉切りを行い、向きを揃えて整頓。更に午後のクラフト用にコースターを切り出したり、4 月 25 日の本番に向けて班ごとに選木を行いました。伐木作業は緊張感が伴うものですが、作業の合間は、自然の中でリラックスした雰囲気もあり、参加者同士の交流も深まりました。

**<午後の部：普及啓発部会の研修>**

昼食後、普及啓発部会の研修が始まりました。まずは作業の合間に来場者にする小話や便利ツールの紹介がありました。先人のインストラクターの工夫が詰まったツールが多数紹介され、小話も多岐にわたりました。先人の方々の苦勞が処々に垣間見え、参加者から感銘のため息が漏れていました。



続いて、木材工芸センターの前で水源涵養実験のデモが行われました。講師からはパネルを使った解説があり、整備された森と荒れた森のモデルを使って雨を降らせ、流れ出た水の量を測定しました。整備された森と荒れた森の保水機能の違いが明確に示され、参加者たちは驚きと感動をもって実験を見守りました。

最後にクラフト作りが行われ、シュロバツタや葉巻笛、丸太切りクラフトを楽しみました。葉巻笛がうまく鳴らなかったり、クラフト作りではボンドがはみ出たり、シュロバツタが異次元の生き物(?)になったりと、各自が楽しみながら学びました。完成した作品(?)を互いに見せ合い、笑顔と歓声が絶えない楽しいひとときでした。

内容が豊富で非常に楽しい研修会となりました。4 月 25 日のネットワーク活動当日も天気の良いことを願って、筆を置きたいと思います。

(記 川島 義晴⑩、写真 井出 恒夫①・川島 義晴⑩)



食べ物からの文化活動『こんにゃく芋からこんにゃく作り 草だんご作り 紙漉き』

日時：令和 7 年 4 月 27 日（日）10:00～15:00 晴れ

場所：茅ヶ崎公園体験学習センター うみかぜテラス

参加者：9 名（①井出、①菊地、⑧阿部、⑨内野、⑩小笠原、⑪長尾、⑬内田、⑮石井、⑰三浦）

晴れた暖かな日、外では家族連れが休日を楽しんでおられました。時間通りに参加者が集まり、作業が始まりました。こんにゃく芋をある程度の大きさに切り、下茹でしている間に、草団子用のヨモギを茹でたり、紙漉き用に用意した草木染め染料を煮出していきます。下茹でが終わったこんにゃく芋の皮を剥き、ミキサーで細かくし、30 分放置している間に紙漉き用の牛乳パックをバラバラにしてミキサーへ。

こんにゃく芋に水酸化カルシウムを混ぜ、型に入れ、しばし放置してから茹でている間に上新粉をこねて蒸して、潰したヨモギを混ぜ、草団子を作っていきます。同時並行での作業でしたが、必要なところに人が集まって作業が進んでいきます。出来上がった草団子をデザートにご準備いただいた素敵なランチをいただきました。

ランチ後、紙漉きをしました。時間ギリギリの完成となったこんにゃくは、お土産として参加者の各家庭へ旅立って行きました。食文化や紙漉きを通じて、楽しくも色々と学べた一日となりました。



(記・写真 内田 啓太⑬)

活動短 信

今回の掲載は R7 年 4 月 17 日から R7 年 5 月 17 日分です。寄稿頂いた中には、紙面都合や寄稿タイミングで次号以降の掲載になるものもあります。

7 月(文月)(旧暦 6 月水無月)の
二十四節気、七十二候、鳥こよみ

小暑 7/7 大暑 7/22、温風至(あつかぜいたる 7/7 ~7/11)。温風は梅雨明けの頃に吹く南風のことで、「白南風(しろはえ)」とも。鳥こよみ: 金緑に輝くボディに水色の嘴、オスは紅のアクセントを配したアオバト。森の中では「オー、アオー」と鳴き声で自己紹介してくれても、姿は中々見せてくれません。照ヶ崎海岸(大磯)は、そんなアオバトが夏季に海水を飲む様子を観察できる有名ポイントです。

活動短信への投稿概略フォーマットと略語の説明

以下のフォーマットに沿って記載をお願いします。
本文と写真は作成せずに送付してください。送付先は最終ページに掲載。

◆ 活動団体・活動名 等

日 日付:令和 x 年 x 月 x 日(曜日)時間、天気
場 場所(例:相模原市緑区 長竹承継分収林)
参 参加者 人数
県 例 神奈川県 環境農政局 緑政部
水源環境保全課 水源の森林推進グループ
財 (公財)かながわトラストみどり財団、☐ 看護師
ス 例 小田原市森林組合 XX 様
例 川崎市公園緑地協会・XX 様
イ インストラクター① (○数字:期) ☐ 研修梓
活 活動内容 例 午前 間伐、午後 クラフトと自然観察

◆ 神奈川トヨタ自動車株式会社様

「新人エンジニア職向け プリウス森木会」

日 令和 7 年 4 月 17 日(木) 10:00~15:50 晴れ
場 県立 21 世紀の森
参 165 名(大人 165 名)
県 熊谷主事様、星主事様
ス 県立 21 世紀の森担当者様
イ L 牧石⑭、内野⑨、徳岡⑪、松本⑪、上宮田⑪、
西出⑫、小杉⑮、岡村⑯、松浦⑯、小国⑰、
藤田⑰、内田⑱、鈴木⑱
活 午前 自然観察、箸づくり、間伐、竹林整備
午後 自然観察、箸づくり、間伐、竹林整備

さわやかな晴天の下、総勢 165 名の参加で新人エンジニア職向け研修活動を行いました。
活動の内容は自然観察、箸づくり、間伐、竹林整備を体験していただきました。

自然観察班
は 1 班 50 分
の観察会を、
午前午後各 2
回活動を行い
ました。

最初に空き瓶

の中の「マツカサ」の球果が水を入れておくとどうなるか想像してもらい、観察会終了時に確かめると、小さくなって出てきた球果に全員が「お～」と驚いていました。

「ムクロジ」はペットボトルに水を入れてムクロジ石鹸液を作成。天然素材ゆえ肌にも優しいと説明したところ、これ全部集めて家で使おうとの声があり盛り上がりました。

「カタバミ」は汚れた 10 円硬貨をピカピカにする実験。10 円硬貨をお借りしてカタバミの葉っぱで磨き、真ん中あたりはピカピカに。他はそのままお返し「残りはご自身でピカピカに」とお伝えするとみなさん大笑いでした。「コクサギ」の葉っぱの匂いは、それぞれの反応でしたが記憶に残る匂いになったようです。観察会終了時に「一番面白かったこと、記憶に残っていることは？」と質問したところ、マツカサ、ムクロジ、カタバミ、コクサギなどと答えが返ってきました。

箸づくり班は県立 21 世紀の森担当者様の指導により作成しました。

間伐班は午前・午後各 4 班で活動を行い。現場は「平成 25 年成長の森」でまだ若いスギ木立が密植状態の為、薄暗く下層植物は生えていませんでした。林内に入ると涼しく、外との環境の違いを感じました。間伐とはどのような作業か、なぜ必要かを紹介し、作業開始しました。参加者は皆 20 歳前後でとても元気、何事も「はい。」と返事があり気持ちが良かったです。メカニックということから作業上の安全性に関しては熟知しているようでしたが、フィールドが違い戸惑いもあるようでした。各班 1 本のスギを倒し、枝払い、玉切り、整理まで作業しました。時間のある班はその後、コースターを作り、水源林の話などをして作業を完了しました。間伐前後での林内の明るさが実感できました。



竹林整備班は、作業地に行く途中で成長の森について解説しました。現地では竹林を整備する必要性や安全な作業について説明し、各自竹を地際で切る、枝払い、玉切りをする、整理するという一通りを行いました。枝葉を落とすことに時間がかかることに驚いていました。

「作業は安全第一、丁寧に美しい仕上がりで進めましょう。」と言うと、「自分たちの会社の仕事と同じだ。」と、班内で互いに声を掛け合いながら作業をする姿が頼もしかったです。自分たちが整備したところが美しく広がっていくことに満足している様子が印象的でした。

(記 内田 千春^⑮ 小杉 小夜子^⑮ 松浦 正^⑮、写真 牧石 稔^⑭)



◆ ソニーグループ株式会社様

FY25 第1回森林保全活動イベント

日 令和7年4月19日(土) 10:00~15:00 晴れ
場 やどりき水源林
参 45名(大人37名、子供8名)
県 県水源環境保全課 村松様
イ L 田島^⑮、山下^⑮、上宮田^⑮、西出^⑮、西岡^⑮、牧石^⑮、伊藤^⑮、川島^⑮

気温は下界より涼しいものの、最高25度まで到達し、夏日の一日となりました。10時から開会式が行われ、開会の挨拶、県担当者の挨拶、インストラクター紹介、準備体操の後、水源涵養実験(デモ)、集合写真撮影、「森は水のふるさと」の説明、その後各グループに分かれて活動を開始しました。

午前中は「森林保全活動(成長の森19-10, 11でカツラの間伐)」「水生生物観察」、午後からは「丸太切り・クラフト体験」「自然観察」「癒やし体験」のプログラム

が予定され、多くのご家族が参加されました。特に暑かったこともあり、「水生生物観察」が大人気で、午後からプログラム変更されるご家族もあり、担当イン



ストラクターが予定され、多くのご家族が参加されました。特に暑かったこともあり、「水生生物観察」が大人気で、午後からプログラム変更されるご家族もあり、担当イン

ストラクターは大人数の参加者の対応に追われました。午前中の「森林保全活動」では、一部のグループがヤマビルとの戦いになり、3名の参加者が被害にあいましたが、大事に至らず、無事間伐作業を終えることができました。その他のグループの方も怪我もなく、また熱中症により気分を悪くされた方もいませんでした。

参加された皆さんは、お土産を手に入れたり、貴重な体験をされたり各自様々楽しい一日を過ごされたようです。最後にソニーグループ様をお見送りし、ネットワーク活動を終了しました。

(記・写真 川島 義晴^⑮、写真 上宮田 幸恵^⑮)



かながわしずくちゃん Twitter は下記 URL で見るができます。

かながわの水環境の
保全・再生をめざして

https://twitter.com/kanagawa_sizuku

◆ 自修館中等教育学校 間伐体験

日 令和7年4月25日(金) 9:00~15:30 曇り
場 21世紀の森 風切水源林
参 大人8名 中学生142名
財 倉野様 志村様
イ L 内野^⑮、滝澤^⑮、松本^⑮、西出^⑮、松石^⑮、鈴木^⑮、牧石^⑮、小国^⑮、田島^⑮、伊藤^⑮、植原^⑮、大川^⑮、繁山^⑮、平出^⑮、藤巻^⑮、山口^⑮、渡邊^⑮

中学1年生4クラスを午前2クラス、午後2クラスに分けて各8班体制で間伐体験を行った。間伐の道具装着や現場への往復の誘導は、インストラクター2名と教師が行い、他のインストラクターは終日間伐現場で、ロープ掛けの準備や作業終了後の片付けなどに専念した。

前日雨天であったため、当日活動場所の足場の状態が気になっていたが、雨は山にしっかり吸収され足場の状態は非常によく一先ず安心した。間伐現場に到着した生徒さんを迎えに行き活動場所まで引率する中、普段歩きなれない山道(特に傾斜地)の移動に怖がりながら慎重に歩いていると同時に楽しんでいる様子も伺えた。活動場所に到着し間伐に関する注意点や作業について説明を行うため注目するよう促すが、普段と異なる環境に少し気持ちが高ぶっているためかインストラクターの声が届かない事もしばしば見られたが、事前学習をしていたため作業説明は理解できていると思えた。作業開始前に作業

順番を生徒さん方に決めてもらうよう促すが、「我先に・・・」という声は聞かれず、学生さんという事もあり出席番号順と決まる。作業開始すると全員不慣れである事が見られ（現代の子はプライベートでノコギリを使った事がないのかと感じた）特に切り始めはなかなかうまく切る事ができず苦戦している様子が見られたが、切り



口ができ始めるとノコギリから木くずが出始めリズムカルに切る事ができている。受け口/追い口を切り終え木を倒す準備をしてもらうよう移動してもらい注意点(掛け声に合わせて/木が倒れ始めたら手を離すなど)を説明。傾斜地でもあり足を滑らす生徒さんも見られた。倒木した際に歓声は聞かれなかったが（インストラクターが聞こえなかった可能性あり）生徒さん各々で達成感を得る事はできたのではないかな。倒木し枝払い作業の注意点やポイントを説明後、生徒さんの作業を見ていると受け口/追い口を切る作業に比べノコギリの扱いは非常によくできていたが、ノコギリの扱いに慣れ始めている事により注意を促す点もしばしばありながらもケガなく終える事ができた。作業終了後、「コースターが欲しい」という声も聞かれ、今回はその対応ができない事を伝え断ったが記念としてお土産として持ち帰って貰いたい気持ちになった。

(記 植原 拓⑱、写真 内野 ミドリ⑨)

◆ 日揮グループ様 水源林保全活動

日 令和 7 年 4 月 26 日 (土) 9:00~13:30 曇り
場 塚原水源林 日揮グループ癒しの森
参 大人 8 名
県 神奈川県水源環境保全課 星主事、野口技士
イ L 岩田⑭、西田⑫、牧石⑭、田中⑱

塚原水源林はやや冷たい弱い風を受け肌寒い曇り空で下刈り作業には好条件でした。賑やかな



ヒヨドリ、ガビチョウ、爽やかなウグイスの囀りを聞きながらの作業となりました。日揮様は予定通り 9:00 前に到着し道具の準備を先に済ませ駐車スペースで開会式を開始、日揮グループ様担当の坂井様、水源環境保全課の星様の挨拶、日揮グループ体操で体を温めた後、下刈り作業エリアの日揮グループ癒しの森に向かいました。作業エリアの手前で、下刈り作業のデモ、注意点、作業の進め方等の説明、9:30 に下刈り作業を開始しました。斜面を下方に向かって一列で侵入進入し、各自担当エリアに配置、横方向(水平方向)に下刈り作業を進めました。



作業は皆手際良く、見通しが利かなかったエリア内が徐々に見渡せるようになり植栽木が立派に成長している姿を 1 本ずつ確認しながら作業は進みました。作業開始前には植栽木が大きく成長しているように見え作業自体は楽かなと楽観的な予想を持ちま



したが、作業を開始するとやはり従来通りカヤヤクワ等の灌木が大きく成長しておりそれなりの時間を要しました。植栽木のサクラやカツラ、ウツギ等は大きく成長、モミヤ一部の樹種では成長の遅いものが見られました。

途中 1 回の大休憩を挟み作業終盤では仕上がりつつあるエリア内を眺め達成感を味わい、将来の森の姿やお花見も話しながら、12:00 に作業エリア全域の下刈りを完



丹沢の自然再生に取り組む 丹沢大山自然再生委員会のホームページをご覧ください。 <http://www.tanzawasaisei.jp/>

了しました。駐車スペースに戻る途中では道路脇に咲いている小さな花々を眺めながら



疲れを癒す時間となりました。道具を清掃し倉庫に収納した後、駐車スペースで輪になっての昼食、充実した活動を振り返りながらの情報交換、意見交換の場となりました。

閉会式を行い、13:20 に塚原水源林を後にしました。
(記 岩田 典義^⑭、写真 県の星主事から提供)

◆ 月島 JFE アクアソリューション株式会社様

TJAS 森林再生ボランティア活動

- 日** 令和 7 年 5 月 8 日 (木) 10 時～14 時 30 分 晴れ
場 県立 21 世紀の森
参 35 名 (新入社員 27 名 + 事務局 8 名)
県 神奈川県 環境農政局 緑政部水源環境保全課
 水源の森林推進グループ
 星主事 秋本臨時主事
イ L 上宮田^⑪、齋藤^⑧、小笠原^⑩、松本^⑪、西出^⑫、
 牧石^⑭
活 午前: 間伐、午後: 自然観察

◆ 三菱化工機株式会社様 新入社員の職場実習

- 日** 令和 7 年 5 月 9 日 (金) 10:30～15:00 曇り
場 やどりき水源林
参 34 名
県 神奈川県 環境農政局 緑政部
 水源環境保全課 水源事業グループ
 主事 星様、主事 熊谷様
イ L 牧石^⑭、西出^⑫、鈴木 (淳) ^⑭、岡村^⑯、
 鈴木 (圭) ^⑯
活 午前 間伐、つる切り

◆ ざまみどりいっぱいデー

(竹材裁断とクラフト体験会)

- 日** 令和 7 年 5 月 17 日 (土) 10:00～13:00 雨
場 座間市芹沢公園 管理棟内多目的広場 (座間市栗原)
参 16 名 (8 家族)
ス 座間市役所公園緑政課 甲山様、加賀谷様
イ L 末原^⑮、上田^⑯

イベント名称をリニューアルして 2 年目となる座間市恒例の「ざまみどりいっぱいデー」ですが、生憎今年は雨が重なりました。屋外開催を予定していたいくつかのイ

ベントがキャンセルとなり、開会式等も管理棟内で行われたため、クラフト体験会はやや遅れてのスタートとなりました。



今年も参加者は事前申込みの家族 (5 才から 12 才の子供含む家族) の皆さまで、子供たちは準備の段階から展示された見本品に興味津々。冒頭、「みどり」についてインストラクターから簡単な講話を行った後、まず竹材 (青竹) を選ぶ作業から始まり、その後は親子でタッグを組み目的の長さの材を得るための共同作業を頭と手を使って楽しんでいました。 やすり掛けを終えると、後は穴を開けたり、紐を通したり、シールを貼ったり、好みのデザインに仕上げていきます。

この日竹材を使ったクラフトは、竹ぽっくり、竹ランタン、壁飾り、青竹踏み等々でしたが、会場では他にもシュロ葉を使った「シュロバッタ」や、好みの葉をラミネートした「押し葉しおり」を作る場所も用意され、参加者は複数のクラフトにチャレンジしていました。



今年は午前のみの一部制となりましたが、計 8 家族 (大人 8 名、子供 8 名) の方々が参加されました。外で降り続く雨も何のその、子供たちの多くは完成品を手にも充実の時間を過ごせた様子でした。

(記・写真 末原 興一 ^⑮)

シリーズ

『やま』の色々

今月の掲載はありません。
次回掲載は 8 月号です。

やどりき水源林ミニガイド

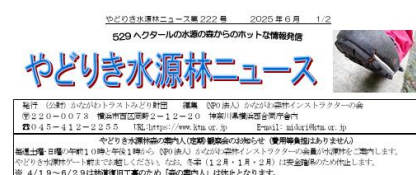
「やどりき森の案内人」

林道工事の延期に伴い、一般車両の通行止め解除まで森の案内人を中止いたします。案内再開については、以下のリンクをご参照ください

<https://ktm.or.jp/yadoriki/>

「やどりき水源林ニュース」

過去号は上記リンク先からご覧になれます。6月号は意外と知らないヒルに関する情報が満載です！



彼を知り己を知れば百戦殆からず 孫子



森林探訪ガイドブック 販売開始

『森林探訪ガイドブック』は、かながわの自然を愛する森林インストラクターが力を結集して企画・編集したガイドブックです。

A5フルカラー52頁、動植物や史跡等の写真多数、地図、高低差図、ミニ動画ガイド付きです。在庫がなくなり次第、販売終了となりますので、お早めに購入申込みしてください。定価：相模川以西、相模川以东 各700円（税込）



やどりき水源林問合せ：(公財)かながわトラストみどり財団

TEL：045-412-2255 / FAX：045-412-2300

<https://ktm.or.jp/> Mail: midori@ktm.or.jp

かながわ森林インストラクターの会

<https://www.forest-kanagawa.jp/> Mail: kinst0981@friend.ocn.ne.jp

年間通読のお申し込み

「森のなかま」年間通読をご希望の方は、郵便局備付けの郵便振替を利用してお申し込み下さい。

郵便振替口座00230-0-2454 かながわ森林インストラクターの会
宛まで2000円をお振込み下さい。振替用紙には、必ず、住所、氏名を明記して下さい。振替用紙到着の翌月号から12回/1年間お届け致します。

森のなかまは過去号もご覧になれます

(ホームページ) <https://www.forest-kanagawa.jp/3kiroku.html#kiroku01>
(HP担当：森本 利弘)

◇ 森のなかま原稿募集 ◇

会員読者の皆様から広く募集しています。原稿は随時受付けています。

<広報全般お問い合わせ>

河西 静夫
skasai0618@gmail.com

<電子配信会員向け担当>

小池 宗子
muneko-sakura@outlook.jp

<本誌、別冊原稿送り先>

河西 静夫
skasai0618@gmail.com
小国 一男
ka-oguni@ab.auone-net.jp

受信漏れを防ぐため本誌、別冊とも上記に2名にお送りください

◇ 編集後記 ◇

★ 以前、本誌で山火事について触れました。その大船渡市綾里（りょうり）地区では、ウニ漁が解禁になりました。山火事で漁具を失った漁師さんには、市や魚協から必要な道具が支給されました。綾里地区では、先の山火事の影響か、すでに土砂崩れが発生したところもあります。「森は海の恋人」と言われますが、恋人以上に大切な存在です。三陸のウニご堪能ください。（小池む）

★ 昨日（6/15）、扇風機の使用を開始しました。シーズン後、分解して箱詰めしているの、また組み立てます。15分ほどかかるのですが、夏が始まってしまった感を強くします。エアコンもそろそろ出番の予報になってます。果たして、今年の夏の暑さはどうなるのでしょうか。（小国）

★ 梅雨明け前の連日の快晴の6月中旬に、南足柄市大雄町の花咲く里山を訪れました。田植えを終えて緑一面の綺麗な棚田。その脇にはポコポコと心地よい水音の小川。夏を迎えた里山の緑のなかに、あぜ道脇の青色や赤色の紫陽花が映えています。木陰でそよ風に当たりながら、里山の風景を眺めていると心を和ませてくれます。このような生物多様性が豊かな里山をしっかり守っていきたいと思います。皆さまも花咲く里山を訪ねてみてください。（森本）



編集人：河西 静夫
広報部：黒川 敏史、松本 保、
笠原 かずみ、長尾 晴子、小林 照夫、
大友 博道、小国 一男、小池 宗子、
森本 利弘
支援：大原 正志、吉田 郁夫